

目次

これまでの失語症者像からの転換	1
奥付	
奥付	4

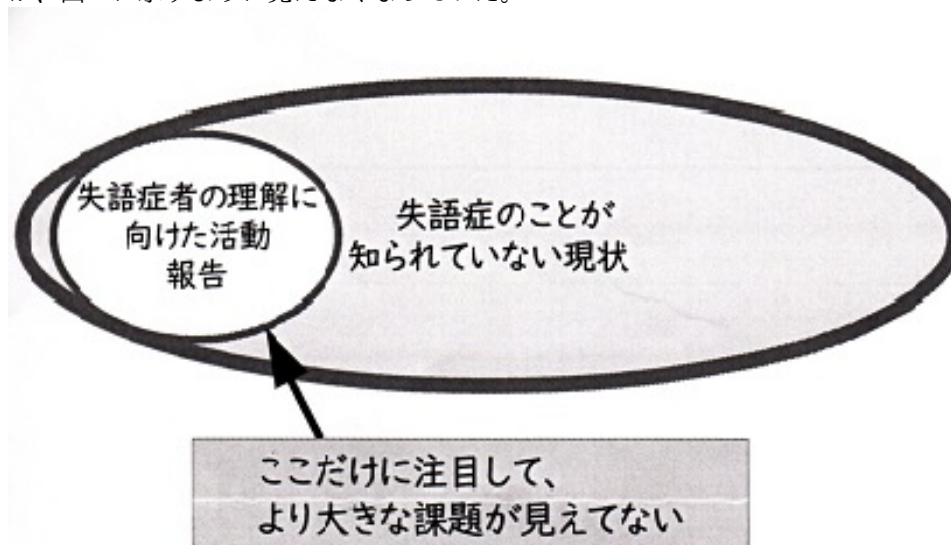
これまでの失語症者像からの転換

第1章 これまでの失語症者像からの転換

1999年3月、言語聴覚士の第1回国家試験が行われた。筆者もその受験生の一人であった。それから約20年経った。厚生労働省は各都道府県に「失語症者向け意思疎通視線者養成事業」を実施するよう通達した¹⁾。筆者が所属しているF県言語聴覚士会も、この「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」を委託された。2018年のF県言語聴覚士会の「総会時講演会のお知らせ」²⁾には、講演のテーマが「失語症のある人の実際の生活の様子や普段の生活で困っていること」や「ST (speech therapist : 言語聴覚士) に対して当事者団体の立場から求めること」であることが記されていた。

この「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」が開始する前からも、失語症者の社会参加や周知に対して様々な取り組みがなされてきた。

報告例をごく一部だけでも挙げると、2004年に言語聴覚士の小林久子先生は、失語症者会話パートナーの養成という観点で失語症者がコミュニケーションするために必要な人的環境づくりについて報告している³⁾。2005年には失語症当事者の櫻井氏とそのご家族が失語症当事者と家族が、デイサービスを立ち上げたことを報告している⁴⁾。テレビ番組では、2012年に失語症者が準主役として登場したドラマ「はつ恋」が放映された。しかし、筆者は上記の講演会に参加したことで、失語症という障害を持つ人がいるということが2018年になっても世の中に知られていないことを改めて知った。国家試験第1回目から20年経ても、ほとんど変わっていなかったのだった。これまで取り組まれてきたこと、即ち先行研究に注目することは、先行研究が存在するということになる。筆者はその存在だけに注目していた。そして、失語症者への理解が進んでいないという現状が、図1に示すように見えなくなっていた。



何故、世の中に失語症や失語症者のことが知られていないのか。前述の小林先生は「他のコミュニケーション障害と比較して、その言語機能の障害が話す、聞く、読む、書くのすべての側面にわたっているという特徴」のために世の中での理解が進みにくい。そして、「当事者である失語症者自身がこれを説明する手段を持っていない」と説明している。言語障害である失語症だからこそ、自分がコミュニケーション困難になっているという状況を相手に言語を使って説明することが困難になっているのである。(注：筆者は定義や障害として書くときに「言語」と記し、一般的な我々の会話を説明の対象として書くときに「ことば」と記している。) このことを踏まえて、筆者は2005年に失語症を体験的な理解を促すための方法を検討した⁵⁾。ことばを使わずに相手に伝えることの困難さの体験と、相手が話していることばが理解できないことによる不安の体験を考案した。しかし、筆者が失語症者理解のための疑似体験学習として考案した内容は、失語症者の状況の困難さと不安を疑似体験することであった。これでは、辛さばかりを疑似体験することになってしまっていることに気が付いた。当時の筆者は、失語症者が抱える辛さを伝えることこそが失語症者の体験学習の意義になると決めつけていたのである。失語症者の状況として、個人差は常にあるものの、ことばでの意思疎通に何らかの支障をきたす。具体的には「話せない」、「話しても伝わらない」、「コミュニケーションが取れない」などが挙げられる。これらが原因となって職業復帰や家庭復帰などに影響を及ぼす。確かに失語症によって、失語症者本人には膨大なストレスがかかってくる。しかし、辛いことだけを強調しては、歩み寄り人は限られるのではないだろうか。失語症者の状況を「辛い」とレッテルを貼るかのように決めつけずに、世の中の失語症者への関心、あるいは歩み寄りを少しでも広げることができないだろうか。これまでの失語症者像を基に決めつけるのではなく、失語症者への新たな理解というものが可能ではないだろうか。「理解」とも異なる、積極的な模索というべきかもしれない。この新たな理解に向かって、ある「仮説」を立てて、この先に述べていく。

参考文献 1 \) NPO 法人日本失語症協会ホームページ 2) F 県言語聴覚士会総会時講演会のお知らせ (2018) 3) 小林久子:失語症会話パートナーの養成. コミュニケーション障害学 21,35-40,2004

4) 櫻井勇、田中亜寿香：失語症当事者と家族が作った失語デイサービス. コミュニケーション障害学 22,47-52.2005 5)：失語症理解のための疑似体験学習の意義. コミュニケーション障害学.22,173-176,2005

奥付

奥付

失語症文化論仮説

<https://puboo.jp/book/130297>

著者 : menosmal 著者プロフィール : <https://puboo.jp/users/menosmal/profile>

感想はこちらのコメントへ <https://puboo.jp/book/130297>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<https://puboo.jp/>) 運営会社 : デザインエッグ株式会社

{{
-}}

失語症文化論仮説

版番号の予定

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
